

創立百二十周年記念式典および講演会

■ 創立百二十周年記念式典



令和3年11月6日(土)、創立百二十周年記念式典が、在校生 396 名、教職員 47 名の出席のもと開催されました。令和 2 年 11 月に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一年間延期となり、校内(在校生、教職員)のみでの開催となりました。

はじめに、泉谷校長より、この百二十周年を三本松高校の偉大なる歴史を礎とした新たな出発点として、全校生徒職員、地域の方々とも力を合わせて今後のさらなる飛躍に向けて進んでいくことへの決意が込められた式辞がありました。

次に、生徒代表古川晴登さんより、全校生徒一人ひとりが主体的に行動し、三本松高校のより良い伝統を築いていくとの言葉がありました。

また、大中三高会名淵会長より、多くの著名人を輩出した母校の歴史や南原先生の言葉の紹介、母校の新たな伝統を築いていってくれることへの期待、記念式典挙行に対する感謝の意など、同窓会を代表しての祝辞が述べられました。

さらに、創立百二十周年を記念し、大中三高会より寄贈した「校歌レリーフ」(第1体育館に設置)の基になった書の贈呈式が行われ、書家の藤井翔夢さん(三高 39 回卒)より、書が泉谷校長へ寄贈されました。その後、藤井さんより、在校生に向けて、ご自身の高校時代から現在までの経験などを踏まえ、何事にもチャレンジして、自分の夢を叶える努力をして欲しいとの話がありました。

■ 記念講演会

講演者 諏訪中央病院名誉院長

鎌田 實 氏

演 題

「おもしろい人生を生きるために」

鎌田先生は前日九州での仕事からの移動で、講演直前に学校に到着されました。先生は事前にお送りしていた創立百二十周年記念誌「FROM TORAMARU」を取り出し、「この坂をのぼろう～未来へ～」(p81～83 掲載)の歌は誰が書いたのと。和田浩 元校長が書かれた「この坂をのぼろう」(p22 掲載)に対する返歌であり、生徒が書いたことをお伝えすると「なかなか良いですね」と。

そんなやり取りが校長室であった後、講演の時間となりました。前半は、野球部、学業、虎丸登山など、120年の歴史の中で先輩たちから受け継いで来た精神がこの学校には宿っていると言う話から始まり、自分の人生やホスピス等での経験から、面白い人生を生きるためには、現実をしっかりと見て「自己決定」することが大切であること。また、本当に良い人生を歩むためには、自分だけを大事にするのではなく、1%でも良いから誰かの為に生きてみる。などの話がありました。後半はバックグラウンド音楽を流し、チェコ、パレスチナ、イラク難民キャンプ、 cholera ノーベリ(チェルノブイリ)などでの医療支援の様子とエピソードを写真とともに話されました。世界では理不尽なことが多く起っているが、私たちは、現実をしっかりと見て考え、乗り越える力を持たないといけないと力説されました。

最後に先生は「今日、頭に残ったことを実践してみてください。20年後くらいに、あの時に鎌田の話聞き、ちょっと人生が変わったな。と思っていただければ僕はちょっとうれしいです。」と締めくくりました。

